

令和2年度第3回宗像市介護保険運営協議会 議事録

期 日：令和2年10月1日(木)

時 間：午後6時30分～午後8時04分

会 場：宗像市役所 103A会議室
(北館1階)

<出席者>

【委員】

岡山委員【副会長】、小川委員、荻田委員、鴨川委員、坂元委員、渋谷委員、中村委員、林田委員、
藤城委員、本郷委員、三宅委員【会長】、矢島委員、山崎委員 (五十音順)

(欠席)

姫野委員

【事務局】

北原健康福祉部長、衣笠保険医療担当部長、福嶋介護保険課長、早川高齢者支援課長、林田健康課長、西川健康課参事兼健康サポート係長、山口高齢者支援課参事兼地域包括ケア推進係長、高宮高齢者支援課主幹兼地域包括ケア推進係長、花田福祉課主幹兼保健福祉総務係長、副田高齢者支援課高齢者サービス係長、佐藤介護保険課介護認定係長、安川介護保険課審査指導係長、西村介護保険課介護保険係長、椎葉介護保険課介護保険係主任主事

<会議次第>

1 開 会

2 会長挨拶

3 議題

(1) 報告事項

○介護施設事業者ヒアリングについて(実施報告)【資料1】

○年齢別人口に占める介護度別要介護認定者数及び将来推計について【資料2】

(2) 審議事項

○第8期宗像市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(たたき台)【資料3】

○第8期事業計画期間における施設整備方針(案)【資料4】【資料5】

(3) その他

4 閉会

1 開会

【事務局】

すみません。定刻になりましたので、ただいまから令和 2 年度第 3 回介護保険運営協議会を開催したいと思います。あらためまして、皆様、こんばんは。

本日は、お忙しい中御出席いただきましてありがとうございます。本日の司会を担当させていただきます介護保険課の福嶋でございます。よろしくお願いいたします。

まずは資料の確認をさせていただきます。事前に配付させていただいております資料が、資料 1 から資料 5 まででございます。あと、本日配付させていただいております資料が 2 部、資料 3 の 20 ページの修正の資料と、同じく資料 3 のページ 39・40 両面で印刷させていただいております。お手元でございますでしょうか。はい。ありがとうございます。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

本日の欠席委員は、事前に連絡いただいております姫野委員 1 名、あと、本郷委員と坂元委員につきましては、ちょっと遅れて出席するという事で連絡をいただいております。したがって、委員の過半数以上の御出席をいただいておりますので、宗像市介護保険運営協議会規則第 5 条第 3 項により定足数を満たしておりますので、会議が成立していることを御報告させていただきます。

次に、議事録署名委員の選任でございます。議事録署名委員につきましては、名簿順によりまして今回は友添委員になっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、2、会長挨拶、三宅会長、よろしくお願いいたします。

2 会長挨拶

【会長】

皆さん、こんばんは。今日から 10 月ですね。秋晴れの晴天が続いて、台風が来ずに、そして何よりもコロナの一刻も早い収束を願っておるところでございます。そのコロナ禍のお忙しい中、本日は多数御出席いただきましてありがとうございます。

今日、また、この後いろいろ審議いただきますけど、何とぞ忌憚のない御意見を活発にお願いしたいと思っております。

【事務局】

ありがとうございます。

それでは、これからの進行につきましては、会長のほうにお願いいたします。

3 議題

(1) 報告事項

【会長】

はい。それでは、今回の運営協議会では、計画策定に当たって報告事項が 2 件、それから、御審議いただきたい事項が 2 件となっております。

早速報告事項からまいりたいと思っております。

それでは、1、報告事項について、介護施設事業者ヒアリングの実施報告について、事務局からの御説明をお願いします。

【事務局】

・「介護保険事業者ヒアリングについて（実施報告）（資料 1）」

<事務局説明>

【会長】

はい。ありがとうございます。

ただいまの件につきまして、御質問や御意見のある方はいらっしゃいませんか。よろしいでしょうか。では、無いようですので、次にまいりたいと思っております。資料 2 です、年齢別人口に占める介護度別要介護認定者数及び将来推計について、事務局のほうからよろしくお願いいたします。

【事務局】

・「年齢別人口に占める介護度別要介護認定者数及び将来推計について」(資料2)

<事務局説明>

【会長】

はい。ありがとうございました。

この点につきまして、御質問、御意見のございます方いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

(2) 審議事項

【会長】

はい。それではございませんようですので、この次は、2番、審議事項に入ります。

審議事項、第8期宗像市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(たたき台)について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

・第8期宗像市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(たたき台)(資料3)

<事務局説明>

【会長】

はい。ありがとうございました。第8期の計画について、多岐にわたる分析とそれからアンケートに対する分析ということで説明をしていただきましたけども、何でも構いません、御意見、御感想、御質問おありの方はいらっしゃいませんか。どうぞ。

【委員】

37ページの、4行目の、「二中」のことですか。誤字の分です、「日中」だと思います。

先ほど、資料3の5ページですかね、関係団体ヒアリングを介護施設等のヒアリングに訂正というお話がございました。それで、ここのアンケート調査の実施については、例えば介護施設事業者ヒアリングというのは資料1で説明を受けましたけれども、それがそのまま載ってきますか。どういう扱いをされるんですか。これを計画にどうされるんですか。

【事務局】

今日お示した資料につきましては、形態は別冊になるか本計画に組み込むかは検討したいと思っておりますけども、計画の策定資料として掲載をさせていただこうと考えております。

【委員】

介護施設事業者のヒアリングが市内の介護施設の事業者となっておりますが、そのヒアリングの結果が、ずっと課題ごとに書かれているのですね。これは、見る人が、事業そのもの、施設の中身そのものがわかれば、なるほどそうだ、というのがよくわかるし、納得できる調査なんですけれども、施設とか、あるいは通所者とかが入り交じった回答がまとめられているところがあるんですね。それで、ここにおられる皆さんはよくわかりなるとは思いますが、失礼ながらその一般市民の方ですね、これは何を言っとるんだらうとかかいうような、そういう戸惑いがあるかもしれないんじゃないかと。非常に納得できる回答なんですよ。それで、これをやり直すことはできませんので、何か実施報告の回答者を後ろに書かれれば、ここは特別養護老人ホームとか括弧してですね、ああ、特養はこういう問題を抱えておるんだなど、あるいは介護老人保健施設はこういう問題を抱えておるんだなど、それでヘルパー派遣の事業所はこういう問題を抱えておるんだなどというのがわかると思います。

だから、これは調査ですから、文章を書きかえるわけにはいかんけど、何かちょっと括弧書きぐらいであればわかりやすくなるかと思えます。

【事務局】

はい。では御指摘いただきましたとおり、その施設区分等を明示する形で、もっと読みやすい形に、括弧書きでわかりやすく表現を修正していきたいと思えます。

【会長】

はい。ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。どうぞ。

【委員】

遅くなってすみません。ちょっと、互助・共助と書いてある両方の意味をちょっと教えていただけませんか。

【会長】

互助と共助の違いということですかね。

【事務局】

互助というのがお互い、相手と自分、お互いという意味合いがより強いと思っております。共助となると、もう少し、こう、コミュニティーですとか地域、こういった広がりが出てくるというふうになります。

【委員】

初めて聞いたんです。すみません。

【会長】

はい。ありがとうございます。次、どうぞ。

【委員】

13 ページの介護保険事業の状況ということで、非常に認定率の推移がちょっと下がっていますよね、これ全国的には、多分高くなっているんじゃないかな。福岡県と全国を見ても、全国は、あれですかね、白だから 18.5%で上がっていますよね。それで、宗像市は 14.1%ということで、何でこんなに差があるのかな、元気な高齢者が多いのか、認定審査会がちょっと厳しいのか、そこ辺はどうなんだろうかと改めて質問させていただきました。

【事務局】

認定率が減少で推移しているという状況ですけれども、一番大きな要因としましては総合事業ですね、新しい総合事業が始まりまして、その予防ですとか事業の効果が出てきている、その影響が大きくこの認定率にあらわれてきているというふうに考えております。

【委員】

はい、非常にいいことですね。ありがとうございます。

【事務局】

すみません、補足させていただきます。今の原因と、もう 1 つ大きくあるのは、今、団塊の世代の方々が 65 歳に到達しているところでして、認定率を出すときの高齢者数が分母になっておりますので、その分母が、今、大きくなっているという現状があります。実際には、75 歳以上の方になるとぐっと認定される方がふえてまいりますので、現状で言うと 65 歳から 75 歳、74 歳までの方の人数が、今ふえている状況ですので、そういったところも認定率が下がる要因になっているかと思えます。以上です。

【委員】

だけど、団塊の世代は全国的に多いんじゃないですかね、宗像市だけ少ないということじゃないんじゃないかと思いますが、どんなふうですか。

【事務局】

そうですね。それもございますけれども、宗像市というところ、ちょうど今一番多い団塊の世代の方々が分母のほうに入ってきたところで、ちょっと大きく下がっているというのも、それが全てではもちろんないんですけども、総合事業の開始と合わせて下がる要因になっているというふうに考えております。

【委員】

ちょっとそれに関連して。審議会あたりに認定の苦情が上がってくるケースがありますか、今現状どうですか。

【事務局】

介護度が下がった場合の苦情等がございますが、やはり認定というのは、その方にどれだけ介助が必要かということで、適正に審査会において認定されておりますので、病気が重くなったから介護度が下がるとかではなくて、ということで説明をしてみまして、どうしてもこの方に見合っていない介護度だということでケアマネさん等がおっしゃられる場合は、もう一度区分変更申請という形で出し直していただいて、再調査・再審査をさせていただきます。

先ほどの認定率が下がった理由のまた一つといたしまして、平成 28 年 4 月より、今まで更新

申請の方に、一斉に郵送で「更新申請のお知らせ」という通知を出させていただいておりましたが、それを廃止いたしまして、どうしても必要な方には、やはり更新の申請を、御家族やケアマネさん、また、事業所のほうからしていただくということでしておまして、お守りで持っておられるという申請を、ちょっと随分廃止できたのかなというも減った要因じゃないかなと思っております。

【会長】

はい。ありがとうございます。この件につきまして、あるいはほかの件でも結構ですけど。

【委員】

すみません。お尋ねでございます。29 ページとかで、行政に力を入れてほしいことという質問項目があるんですが、ホームヘルプ、デイサービス、通所介護、訪問介護等はなるとわかるんですけど、例えば宗像市の高齢者の方の真のニーズというか、その「など」と書いてあるこの辺は掘り下げて、例えば介護保険制度でできないようなニーズとかは、例えば市町村特別給付などの制度もあるかもしれませんけど、その辺のニーズがどうなのかというのはひとつちょっと気になったのと、あと、自由記述がアンケートであるのであれば、自由記述の傾向とか何かあれば、要するにこれ、計画のエビデンスになっていくと思うので、そういう意味ではその辺は大事なかなと。介護保険のサービスがこれだと不足するみたいなところは捕まえる必要はないのかというところでございます。以上でございます。

【事務局】

すみません。もう一度指標の名称を教えてくださいませんか。

【委員】

29 ページの帯グラフ、横のグラフの 1 つ目に介護保険の在宅サービスを充実するという項目がございまして、これは在宅サービスの充実のために行政に力を入れてほしいと思うんですけど、「など」が結構多くてですね、具体的なニーズをどこまで把握しているかというところと、もし、宗像市独自のニーズがあればその扱いが軽視できないんじゃないかと思っておりますので。

【事務局】

まず、2 点、サービスの具体がどういうふうに記述されているのかというところと、自由記述欄でどういった意見が出てきているかというところですけども。まず、このホームヘルプやデイサービスなど、「など」というところですが、もう一度、アンケートの詳細を確認させていただければと思うんですけども、例示としては、やはりこのホームヘルプ、あとデイサービスというところで選択肢のほうは設定させていただいております。

あと、じゃあその中で具体的に、どのサービス区分で細かくサービスごとに出てきているかというところでございますけども、その点につきましては、いま一度、集計結果を確認させていただいて、次回、御回答させていただければと思います。

あと、自由記述欄についてですけれども、今回、本計画において、特に自由記述欄のみをまとめて、その内容を掲載というところは、今時点では予定しておりません。ただ、委員におっしゃっていただきましたように、自由記述として記載されている内容については、事務局のほうで把握できている資料がありますので、そこをいま一度振り返りまして、特徴等を改めて精査させていただければと考えております。

【会長】

はい。ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。どうぞ。

【委員】

認知症に対する予防事業であるとか、在宅サービスであるとか、施設サービスであるとか、そういう市としての認知症対策は、この 3 年間でどのようなことをされてこられたんでしょうか。例えば福岡市は、平成 27 年でしたかね、高島市長のアクションプラン 2011 でしたか、そういうプランがありまして、それに従って認知症対応の技術を講習会などで実施しておりますけども、認知症予防であるとか、それから介護者側の認知症に対する対応の技術であるとか、そういう面に対するサポート事業はなされてきたのでしょうか。

【事務局】

まず、認知症施策に関してでございますが、介護保険事業では、給付関係でそういった施設関

係だとか、あと在宅サービス提供もあります。それと加えまして、地域支援事業のほうで認知症施策の総合支援事業というのがございます。認知症総合支援事業の中で、この3年間で一番大きな事業となりますのが、いわゆる認知症地域支援推進員の配置と、あと認知症初期集中支援チームの設置というところがございます。いずれも、認知症初期集中支援チームも、認知症地域支援推進員も、まず、宗像市が日常生活圏域ごとに整備しました地域包括支援センターに配置しておりまして、より市民に身近なところで認知症施策の対応ができるような仕組みを構築したというのが、第7期の一番大きな成果だというふうに感じております。

加えまして、1つの例で挙げれば、認知症ケアパスを作成しまして、一昨年ですね、全世帯に配布したり、今でも、認知症施策においてはその認証症ケアパスを使って、各認知症地域支援推進員が事業所等を訪問して、地域での啓発に努めているというところがございます。今、まず大枠でお答えさせていただきましたけど、そのほか、補足での御質問があればよろしくお願ひいたします。

【委員】

ありがとうございます。

【会長】

はい。ありがとうございます。どうぞ。

【委員】

ちょっと今のじゃなくて、先ほどの在宅サービスを充実するというところなんですけど、事業所を運営している立場として、介護度の低い方は、在宅サービスを使って自宅で生活できているんですけど、介護度が上がった途端に施設を希望されることがぐっと増えるんですね。それがもう、在宅サービスが少ないからそうなっているんじゃないかなというのがちょっと印象的にあるんです。それで、やっぱりホームヘルプの回数をふやすとか、何かそういうのがやっぱり足りないの施設を希望されているのかなというのがちょっと印象としてあります。介護度がちょっと上がると、もう、いや無理です、もう在宅おれませんという方が結構いらっしゃるんですね。そして、すぐ施設と言われるから、いや、いや、そう言わないで、在宅もっと頑張りましょうと言うんですけど、でも、ちょっとやっぱりサービスが足りないという声を聞くことが多くなりました、最近。それには老老介護という問題で、やっぱり年齢が上がっていつているので介護者が無理ですと言われるんですね。だから、そこの兼ね合いというか、在宅サービスを充実すればそれができるのかなというのは、ちょっと断定はできないんですけど、そういう状況はちょっと感じておりますので発言させていただきました。

【会長】

はい。ありがとうございます。何か事務局のほうから御意見ありますか。はい、どうぞ。

【事務局】

御意見どうもありがとうございます。もう一つの協議事項で、本日御提示させていただいてます施設整備方針ですね、その中にも案として御提示させていただいてますのが、1つ、定期巡回型のサービスの導入というところがございます。そのあたりも含めて、また御審議をお願ひできればと思います。ありがとうございます。

【会長】

はい。ありがとうございます。ほかにはよろしいでしょうか。はい。だいぶ意見も出尽くしました。それでは次にまいりたいと思います。次が、第8期事業計画期間における施設整備方針(案)についての、事務局からの御説明をお願いします。

【事務局】

・第8期事業計画期間における施設整備方針(案)(資料4)(資料5)

<事務局説明>

【会長】

はい、ありがとうございました。ただいまの御説明に、何か御質問、御意見ございませんでしょうか。はい、どうぞ。

【委員】

ちょっと教えてください。入所系施設、2ページ目の第8期の方向性で、定員50名とショー

トステイを、整備を要望するということですが、これにつきましては 100 人とか、第 6 期みたいに 110 人というような人数設定を検討されたのでしょうか。もちろんされてあると思うんですけど、と申しますのが、宗像地区の特別養護老人ホームだけにとってみても、32 年度末では定員数が 594、例えば、同じ人口約 10 万人の宗像市、それから福津市も入っておりますので 594。例えば飯塚市、これにつきましては施設が 21 で 1,180、田川市につきましては、施設が 24 で 1,530、粕屋町につきましては、施設が 14 に対して 910。いわゆる福津市を含む宗像市の人口実力からしても、ちょっと少ないのではないかというふうに思っております。むしろ、第 6 期みたいに 110 人ぐらいの整備計画が出てきてもいいんじゃないかと思っている次第なんですけど、その辺はいかな形で 50 人ということが決まったのでしょうか。

【事務局】

単純に、現在の待機者の数とか他市町村の定員数、施設数と比べて考えたときには、委員おっしゃられるとおり、100 人規模での整備を予定すべきというところは理解はしておりますけれども、現在、やはり介護人材の不足の問題があったりとか、今、現に宗像市内の施設のほうで、常にほぼほぼ満床には近いんですけども、やはり、多少空いている施設が存在しているというところも考えますと、大きな施設をつくってしまっ、そこを空けておくというような事態だけは、私たちとしては避けたいところではあります。

第 8 期に向けては、当然、介護人材の確保についても市のほうでも取り組んでいくということで、今、具体的な施策についてはまだ検討中なんですけれども、そこに力を入れながら、もし、そこら辺の介護人材の確保がスムーズにいくような状況があれば、また第 9 期以降でそこら辺は考えていくべきかなというふうに考えております。現時点で現実的で考えられるところであると、確かに待っておられる方もいらっしゃるの事実ですので、全く整備しないということにはやはりならないというところで、全体として 60 床ですね、ショートステイを含めた 60 床というところの整備でいこうというところで考えております。

【委員】

はい、わかりました。ありがとうございます。

【会長】

はい、ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。はい、どうぞ。

【委員】

すみません。4 ページの上です、黒い丸の 3 つ目、小規模多機能居宅介護、これですけども、ちょっと読みますと、在宅生活の継続支援の観点からも、地域密着型サービスの中心的な役割を担うサービスだが、現在の利用状況を勘案し新規の整備を行わないとありますけども、事情が私はよくわからないんですけども。地域密着の部会の委員をしているんですけども、地域密着型というのは、昔の宅老所、今も佐賀県は非常にたくさん、県のほうで補助金を出して、資料によりますと 180 ですか、圏域ごとに 180、佐賀県はつくっているそうです。宅老所の対象を、高齢者だけでなく子どもたちも含む、「ぬくもいホーム」というそうですけども、そういう地域共生ステーションという名前で、佐賀県のほうが非常にたくさんそういう施設をつくっているそうです。そういうあり方が、非常に自然ではないかという私は気がするわけですね。

立派な施設でいいサービスを受ければいいんですけども、やっぱり 10 人程度で、地域のボランティアに支えられながら、スタッフと、それから利用者が共同でサービスを助け合うというあり方が、宗像でもあっていいんじゃないかという気がしまして。そういう、地域で高齢者を支えるというようなあり方が地域密着型だろうと考えますが、そういうあり方から考えますと、こういう小規模多機能型居宅介護という枠の中にははまらないかもしれませんが、介護保険を利用したそういうサービスを推進するということも考えられていいのではないかと思います。

【会長】

はい、どうぞ。

【事務局】

そうですね。現時点では、地域のボランティアの方の要請でありますとか、そういったことも多少かかわってくる理想的なお話だなと思って伺っております。今後、やっぱりそういったあり方、おっしゃられていたように佐賀県のほうでされているということですので、私たちもその辺

は情報をちょっと収集しながら、検討できるものはしていきたいというふうに考えております。貴重な御意見ありがとうございます。

【委員】

介護保険が施行される前には、宗像もボランティアグループ、主婦とか女性中心のボランティアグループが3つぐらいあったと思うんですね。2020年施行ですので、その前。介護保険による介護の社会化ということで、そういうボランティアグループももう要らないと、要らないとか解散してしまって、そういう地域を支える地域の人たちの働きが一時消えたような状況になったのではないかと思います。私も大分長く住んでおりました、そういう状況で、女性たちは地域を支えるようなそういう活動されていたと思います。

そういう地域のボランティアなんかを中心的なあれとして生かしていくようなあり方、行政だけではなくて、協働ということを宗像市も言われていますが、協働という場合、やっぱり地域のいろんな方々の協力をどうしても、自発的な、自主的な、自然なそういうあり方が必要なんじゃないかっていうことを考えています。私の意見です。

【会長】

はい、どうぞ。

【事務局】

ありがとうございます。参考にさせていただきたいと思います。

【事務局】

補足して御説明させていただきたいと思います。現在、今日、シニアクラブの会長がお見えですけど、シニアクラブ連合会のほうも、地域でどう活動するかというところの話がございまして、地域包括支援センターと一緒に何か取り組めないかということで、今、テーブルに上げてですね、早急にいかない部分あるかと思うんですけど、そういった取り組みについても、今進めようとしているところがございますので、そのあたりも含めまして情報提供させていただきます。もしシニアクラブ連合会会長、何かちょっと御説明があれば。今の十分ですかね。はい。以上でございます。

【会長】

はい。ありがとうございます。

【委員】

介護のA、Bというあの問題から出てくると思うんですけど、実はそれで国からもアンケートでいろいろ来るんですけど、アンケート出すときは、みんなゼロ、ゼロで続いているんですね。だから、そういう意味ではちょっと地域密着というよりも、そういう形の情報提供とか、それから、我々が持っている個人情報とか、それは我々のほうが、役所のほうでは個人情報秘匿という問題がございますけども、我々は持っておりますので、そういう提供ができるんじゃないかなということと、それから、やっぱり地域の展開の中にシニアクラブの会員だけをするというのではなくて、安否確認の場合はやっぱり地域全体に行かなければいけないというそういう課題もありますので、今検討させていただいております。

【会長】

はい。ありがとうございます。ほかはよろしいでしょうか。それでは、一応もう意見も出尽くしたということで、今、いろいろな意見をいただきましたので、これを事務局のほうで整理していただきまして。今後の施策に反映していただきたいというふうに思います。

はい、それでは、次、最後、3、その他ですが、事務局何かございますでしょうか。

(3) その他

【事務局】

はい。次回の開催につきまして、本日、開催の通知を配付させていただいておりますけれども、来月、11月の5日18時30分から行いますので、日程調整のほうをよろしくお願いします。

今回第2章までですが、次回は第3章以降、計画案につきまして御協議いただくような形を考えております。また、12月10日に、また第5回を予定しております。こちらのほうでは、最後、パブリックコメントの協議とか、最終的に保険料とかそういったところの部分にもなって

まいります。こちらのほうは、まだ、ちょっと通知のほうはお渡ししておりませんが、日程の調整のほうをよろしく願います。以上でございます。

【会長】

はい、どうぞ。

【委員】

追加でお願いなんですけど、高齢者の方も参加したいというところは、ほかの 1 つのデータでも同じような傾向があるんですけど、やっぱり足の問題があって、参加したくても、今、免許は返せ、返せと言われますし、参加したくても物理的にできない。だから、元気で家に閉じこもっている人たちがいっぱい地域にいると思いますので、その辺のデータがわかるのであれば、併せて出していただくとありがたいなと思います。以上です。すみません。

4 閉会

【会長】

はい。ほかになれば、これにて閉会といたします。本日はお疲れさまでございました。

委員 _____

委員 _____